

定期テスト、ノート持ち込み可 一夜漬けやめ考える力を

有料会員限定記事

渡辺 純子 2019年11月26日20時30分



「自学ノート」を持ちこんで定期テストを受ける中学生＝2019年11月7日、福岡県須恵町の須恵中学校



各地の公立中学校で定期テストを見直したり、廃止したりする動きが広がっている。思考力や表現力を重視する大学入試改革をにらみ、詰め込みの一夜漬けではなく、考える力をはぐくむ狙いだ。問題を出す教員も試されている。

福岡県須恵町立須恵中学校（生徒数504人）では、自作ノートなら何冊でも持ち込むことができる。11月上旬にあった定期テスト。生徒の机にはカラフルな付箋（ふせん）が貼られたノートがあった。10冊ほど積み上げた生徒もいた。

どの教科も問題が多く、記述式が中心。国語は新聞のコラムにタイトルを付けさせたり、「コンビニはなぜ『曲がり角』なのか」を121字以上で書かせたり。終了のチャイムが鳴ると、「くそむずい（難しい）」「時間足りなかったあ」。ため息が漏れた。

須恵中は今年度、これまで4回あった定期テストを6月と11月の2回に減らし、「自学ノート」の持ち込みをOKにした。毎日1ページ以上自宅学習し、教員に提出する自作のノートだ。原則手書きのみで、教員が毎日、中身を点検する。

「最初はイヤだなと思った。勉強しても差がつかなくなるから」と勉強熱心な3年女子。でも問題が増えて難易度も上がり、ノートを要領よくまとめないと探すうちに時間切れとなる。結果的に「毎日ノートに整理するようになって、頭の中がスッキリした」と話す。ある3年男子は「ノートを分かりやすくまとめるようになった。付箋も初めて使った」と話す。

栗原美喜男校長は「ノート持ち込み可にしたことで、子どもは平素の勉強をおろそかにしなくなり、教員も応用問題を出さざるを得なくなった」。受験に備えて3年生は持ち込み不可の実力テストも3回以上行う。10月に持ち込み不可で実施した、業者による実力テストでは平均偏差値が1年前と比べ約1ポイント上がったという。視察した福岡市立中の校長は「思考力、判断力、表現力を伸ばす先進的な取り組み。学力は確実に上がると思う。本校でも検討したい」と話した。

首都圏各地で学習塾を展開する栄光ゼミナールの広報担当者によると、首都圏の公立、私立中学校で定期テストの際のノート持ち込みを認める事例は「聞いたことがない」という。

定期テスト見直しのきっかけは1月、「一夜漬けを助長し、本当の学びにつながらない」と感じた栗原校長が、3年生だけ期末テストをやめたことだった。その後、定期テスト全廃を提案。「ありえない」「どうやって評価するんですか」と戸惑う教員らと話し合いを重ね、ノートの持ち込みを認めることで決着した。

生徒以上に試されるのは教員だ。ノートを見ただけでは解けない問題にするため、テスト前に何度も教科部会を開き、批評しあって練り直す。「どんな問題を出すか考えることで、日ごろの授業改善につながっている」と原結花教諭。答えがひとつとは限らないから採点も大変だ。過去問を使い回してきたベテランや、テストに頼って成績を付けていた教員にとっては負担感が増す。

栗原校長は「応用問題の質を上げていくことが最大の課題。大学入試が知識偏重の学力観を変えていく中、生徒も教員も保護者も変わらないといけない。私たちも試行錯誤中です」と話す。（渡辺純子）

定期テストの扱いは各学校の判断

定期テストをめぐるのは、現場の試行錯誤が続いている。

東京都の千代田区立麴町中学校は昨春、世田谷区立桜丘中学校は今春、定期テストを全廃した。いずれも单元ごとのテストをこまめにすることにした。詰め込んだ知識を吐き出すだけでなく、自分の頭で考える力を育てたいとの考えからだ。

一方、栃木県鹿沼市立東中は1998年度に廃止したが、その後事実上復活させた。单元テストが教員にも生徒にも負担となり、他クラスへ問題が漏れる難点もあったという。「どちらも一長一短」と管理職。

文部科学省によると、定期テストについて学習指導要領に定めはなく、どう扱うかは各学校の判断になっている。同省は今年3月、学習評価について「学期末や学年末など事後での評価に終始し、学習改善につながっていない」などと指摘、「慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと」とする通知を出した。

麴町中の工藤勇一校長は「日本はいまだに、知識を詰め込んで解答用紙にはき出す力を『学力』としているが、今の国際社会では通用しない。欧米にはテストのない国も多い。教育の本質を考えると、ノート持ち込み可のテストは、理にかなった取り組みともいえる」と話す。

大学入試改革に詳しい [渡辺弘](#) ・鹿児島大准教授の話

定期テストに自作ノートを持ちこむ取り組みは珍しい。定期テストは本来、生徒の成長を確認し教員が授業を改善するためにあるが、生徒を選別して順位を付けるための手段になってい

る印象がある。新しい大学入試では知識を踏まえた上で、思考力、判断力、表現力がより問われている。「自作の参考書」を作り、教員がそれを点検するのは、生徒を評価する理想的なあり方に近づく一つの試みといえる。

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.